



遠大勵志

12月9日(日)岩手日報記事より

万博 外国人誘客の好機

通信No.52号でも取り上げました大阪誘致特使の中村富安氏(アスタナ万博に続き20年ドバイ万博日本政府代表=本校45回生)のインタビュー記事が、12月9日付岩手日報に掲載されていました。紹介します。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

2025年国際博覧会(万博)の開催地に大阪市が決まった。11月23日にパリで開かれた博覧会国際事務局(BIE)総会に出席した誘致特使の中村富安さん(64)=北上市出身=に誘致成功の背景や万博への期待を聞いた。投票直前の最終プレゼンテーションも担当した中村さんは、誘致実現の要因を「官民連携の強さ」と説明。外国人客誘致の好機であり「世界中の人と交流できる」と強調し、本県の積極的な参加を促した。(聞き手は東京支社斎藤孟)

= =開催決定時の心境は。
「もちろんうれしい気持ちはあった。それ以上に特使の責任を果たせた安堵感が強かった」

= =1回目の投票は日本が85票、ロシアが48票、アゼルバイジャンが23票。決選投票は日本が92票、ロシアが61票だった。

「圧勝に見えるが、予想よりも苦戦した。ただ1回目で過半数を確保したことで勝利を確信した」
= =成功の要因は。

「官民連携の強さだと思う。関西と東京の連携、大阪府や大阪市、経産省と外務省、関西や東京の経済界とオールジャパンの強さを発揮できた。個人的には昨年のカザフスタン・アスタナ万博からの地道なロビー活動が実を結んだ」

= =大阪万博への期待は。
「黒沢尻北高1年時に見学した大阪万博に感銘を受け、今の仕事に就いた。私が夢を持ったように、子どもたちが参加し、将来の指針にしてほしい」

= =本県の関わり方は。
「世界中から人々が訪れる。万博だけ見て帰る人はいない。

いかにインバウンド(訪日外国人客)を岩手に呼び込むかだ。会員制交流サイト(SNS)など何でもいいので、岩手でできる体験を発信し、行ってみたいと思ってもらえるよう工夫してほしい」

= =万博の楽しみ方は。
「見に行くのではなく、参加し体験することだ。過去の万博で、私が日本館にいと世界中の人々がどんどん話し掛けてくる。この交流が魅力。万博ファンとの交流を楽しんでほしい」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

1970年3月から9月まで大阪において、アジアで初めて日本で最初の国際博覧会(大阪万博)が開催された。当時私はちょうど10歳。開催地とは遠く離れた青森市で生活していたが、当時は何か時代が大きく変わるような高揚感に世の中全体が包まれていた。「EXPO'70」という英語の表記をみるだけでもワクワクした。三波春夫さんが歌っていた「世界の国からこんにちは」という歌は、今でも口ずさむことができる。

♪「こんにちは こんにちは 西の国から
こんにちは こんにちは 東の国から
こんにちは こんにちは 世界の人が
こんにちは こんにちは さくらの国で
1970年の こんにちは
こんにちは こんにちは 握手をしよう」♪

大阪万博と言えば、「芸術は爆発だ！」で一世を風靡した岡本太郎さんの制作した「太陽の塔」【先日、大阪の松井知事が世界遺産登録を目指す考えを表明】が、真っ先に思い出される。それからアメリカ館で展示されていた「月の石」。



当時様々なパビリオンで展示されていた未来の技術(動く歩道、ワイアレスフォン、テレビ電話など)も夢のまた夢の出来事のように感じていたが、今では当たり前のこと。7年後の25年大阪万博ではどんな未来の技術が紹介されるか、みなさんにとって思い出に残るものとなるはず。楽しみに待ちたい！